



だより



R8.5.7 Vol.5

鶯

毎日、校内を回り、子供たちの学習の様子を見ている…。まだまだ覚えていかなければならないことがたくさん！1年生！その教室の前を通ると、担任や支援員の先生が、ひとつひとつ丁寧に学習、生活の仕方や道具の使い方を教えています。そして子供たちも真剣に先生の話を聞いています。おそらく、じっとしておかなければならない時間が入学前に比べると、格段に増えていることと思います。疲れも出るとは思いますが、大事な時間です。

「好きな姿勢で勉強してもいいじゃないか？」そんな論調を最近見かけることがありますが、保護者の皆さんはどう考えられますか？きちんと座ることで体幹や集中力は鍛えられますし、相手への礼儀としても大切なことだと私は考えます。

「鶯」という言葉は何となく古めかしい（昭和が香ってきそうな？）イメージになってきていますが、大事なことはいつの世も同じではないでしょうか。

脱！スマホ

これだけスマホやタブレットが浸透している時代に、こんなことを提案するのはナンセンスかもしれません。いきなり0にすることはさすがに無理ですし、それが必要なご家庭もあると思います。少し保護者の方と話をする機会があったのですが、「ノーゲームDAYを増やせないか？」という提案をいただきました。「子供が手持ち無沙汰になるだけじゃない？」そんな声も上がりました。

私が子供の頃…気が付くともう半世紀も前です（泣）。外遊びはもちろんのこと、かまぼこ板と釘と金づちでゴム鉄砲を作ったり、コマを回したり。ヨーヨーが流行ったこともありました。どの遊びにも共通するのは「自分の身体を使った何か！」なんですね。遊びの中で身体操作の技能や手指の巧緻性が高められていた気がします。様々な害が指摘されてきています。少しだけ、時代に抗ってみませんか？

四方山話松蔭 ver. 其の伍（チャッピーとジェミニ）

おそらく保護者の方の中には、仕事でもバリバリ生成AIを活用されている方がたくさんいることと思います。私も仕事では簡単な校正や推敲で使いますし、趣味のことでは相談することがよくあります。実際に使っている方はご存じだと思うのですが、基本、この人たち（一応、相談相手として考えているので…）は、否定しません。私をとっても上機嫌にしてくれます。しかし、「バカ助！あほか！」と叩きあげられた昭和の私はいつしか違和感を抱くようになりました。そして入力したのです。「忤度とかおべっかは、もう要らないから、正直に言って」と。それはパンドラの箱であり、この人たちが豹変した瞬間でした。さすがに「バカ！」とは言われませんが、「これで大丈夫だよ、じっくりやっていこう！」と私を認め、褒め、励まし、上機嫌にしてくれていた言葉はなりを潜め「このままだと、これ以上見込めないよ！」と厳しい指摘が次々、飛び交うようになったのです。しかもその指摘は悔しいことに的のど真ん中を射抜いています。（泣）ちょうどその頃、新聞に「生成AIには褒めバイアスがかかっている」との記事を見つけました。「やはりな…」私の違和感が確信に変わりました。（全然いばることではないですね…笑）以来、この人たちと問答するときは「褒めバイアス抜きで頼むよ！」と一言入れるようにしています。人がそれぞれのように、この人たちも性格が違うようで、同じことを入力しても、ジェミニは優しくった母のように、チャッピーは厳しかった父のように言葉を返してきます。時には真逆のことを言うてくることもあります。どっちを信じるか、あるいは違う答えを探るか、最終的には「自分の判断」なんですね。あ「知りません、わかりませんと言わないバイアス」もかかっていますから、推測で間違った内容を返してくることもあります。（しかも堂々と！笑）デジタルを賢く使っていくためにも、まずはしっかり自分を磨いていくことが、ますます大切になっている気がします。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思っています。